

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年5月13日

確定日 平成22年5月29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793000031		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	たのしい家東淀川菅原		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市東淀川区菅原 7-9-19		
自己評価作成日	平成22年4月2日	評価結果市町村受理日	平成22年6月18日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/Top.do">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/Top.do</a>
情報提供票を活用する場合	

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号
訪問調査日	平成22年4月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気での生活を目指しています。その為、調理・洗濯・掃除などの生活面に則した生活リハビリとして利用者様一人ひとりの状態にあった事などをして頂く事で、ご本人様自身の仕事と考えて頂きモチベーションの維持に繋げる様にしております。できる事をして頂く事で、必要性を感じ、入居者様一人ひとりが有意義に生活して頂くようなグループホームにしております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>昔ながらの日本家屋と新しい大きなビルの混在した地域に建つ施設である。近隣には大きな公園があり、入居者の散歩コースとなっている。ホーム内には家庭菜園があり、入居者、職員がいろいろな植物や野菜を育てており、採れた野菜は調理の際に食材として使用し、入居者の楽しみとなっている。開所1年と日は浅いが、職員一人ひとりが強い責任感を持ち、常に笑顔をもっとにケアに取り組み、明るく気さくでチームワークも良い。排泄支援に力を入れており、入居時にオムツを使用していた入居者のほとんどが、昼間はリハビリパンツや下着に変更されている。職員が排泄パターン表を作成し、その人にあった援助を心がけた結果と考えられる。入居者にホームでの生活を居心地良く過ごしてもらえよう、居室担当制を設けて支援しており、一人ひとりのホームでの様子が分かるようアルバムを作り、各居室に置いて家族とのコミュニケーションに役立てている。家族アンケートからも良好な関係がうかがえる。今後は地域との連携の必要性を感じており、地域に根付いた事業運営を考えている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご入居者様の個人を尊重し、自分らしさがある生活の継続を家族様、地域と共に支援しいつも笑顔のたえないグループホームを目指しています。法人、事業所理念を掲示し、常にスタッフが再確認をしながら従事している。	管理者と職員は「いつも笑顔であいさつ」を基本として取り組んでいる。個人を尊重し自分らしさがある生活の継続を家族、職員が支援し、笑顔の絶えないホームを目指している。理念を見えるところに掲示し、常に意識しながら業務に従事している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩などを通して地域の方と交流を持っています。また、地域の行事などに参加し、入居者様や職員も地域の一員として参加し、交流を深めている。	毎月、地域で行われているふれあい喫茶や、地域ネットワークの集まりに参加している。近隣の馴染みの店も徐々に増えてきている。近所からの見学者もあり、地域住人からは福祉全般の質問や相談を受けている。今後は、行事の時にはホームを開放し地域の人の参加を募りたいと考えている。	外に出向いて地域とのつながりを強くすることは大切であるが、地域からホームに来てもらい、グループホームや認知症について理解をしてもらう等の取り組みについても期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修を通して学習した内容を地域の方に情報として伝えている。また、地域の行事などに参加時に認知症についての説明などを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月1度会議を開催し、その時に利用者様の状態変化などを説明している。その中で、助言などを頂き、利用者様にとってより良い生活送れる様に活かしている。	2カ月に1回、地域包括支援センター職員、地域ネットワーク推進委員、家族、管理者、職員で開催している。家族には毎回通知しており、参加できる人で行っている。会議の中で職員の挨拶について意見があがり、すぐに改善策を立て、挨拶の必要性や方法についての研修を行った。今後も会議で出た意見については、全体で考え入居者のサービスの向上に活かしたいと考えている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター・社会福祉協議会・地域ネットワーク推進委員・認定調査委員などからの情報やアドバイスなどを頂き協力関係を築くように努力している。	運営推進会議の参加を地域の多方面に呼びかけている。今後は、行政との協働関係やグループホーム連絡会への参加等、つながりを深めていきたいと考えている。	ホームの状況報告や市や区からの情報を取り入れる等、ホームを理解してもらい相談や支援が得られるような関係を築けるよう、今後の取組みが期待される。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束は全ての職員に研修し、一人ひとり理解を深めています。その上で、安全面を優先しなければいけない場合など、事前に家族様に了解を得て対応することもあります。また、環境面の事もあり施錠をしています。	危険回避のためにフロアの入口、外の道路に通じる窓については、基本的に入居者が一人では出られないようになっている。今後については施錠しなくてもよい環境づくりを考えており、入居者から外出の希望があった時には、その都度対応している。	周辺の交通量など入居者の安全を考慮し施錠している。職員の意識も高いことから、安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援するための工夫を職員で話し合い、施錠が常態化しないよう取組みに期待したい。
7		虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、全ての職員に対し研修し、一人ひとり理解を深めています。また、利用者様一人ひとりの尊厳についても努力する様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者様が成年後見制度の活用をしています。また、社会福祉士の資格を持つ職員も2名おり、他の職員も理解を深める様にしております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、会社・事業所の理念、運営方針、金銭面などを十分に説明し納得頂ける努めています。また、誤った理解のないよう必要に応じて何度でも説明した上で、契約を行っています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族様の要望を引き出せるようにし、運営推進会議に、入居者様・家族様に出席頂き意見・要望をして頂く様にしています。	意見箱を玄関に設置し、外部からの意見を募っている。家族の訪問も多く、訪問時には直接対話し要求や意見を聞くようにしている。その時出た意見については、職員で話し合い要望に応えられることは改善していこうと考えている。入居者から出された要望についても会議で話し合い、できることから取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月1回の施設会議を開き職員と意見・提案を反映している。常に意見・要望が言える環境にし反映させるよう努めている。	月1回会議を開催している。職員からは活発に意見が出されている等、意見を反映させやすい環境となっている。職員からでた意見や相談は、フロアリーダーが主となり、解決に向けて話し合い、必要に応じて管理者も参加している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は努力した者には報われる図式を整えている変則勤務のため大変だが希望休・有給・季節休等取りやすい環境に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行い、社内外の研修に参加しやすい環境に努めている。研修・受験の資格のある職員には参加を促し、スキルアップにつながるよう配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設の見学・情報交換をし、施設作りに反映させている。地域の施設の交流会参加予定。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族様の不安・要望を重視したアセスメントを行い、職員間情報を共有し支援している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学して頂き施設の雰囲気を感じていただき、面接・契約時に現状・困っている事・希望等をお聞きします。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様の不安・要望・現況に添った介護ができるか判断します。対応出来ない時は他の施設を紹介します		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が孤独にならないよう気を配ります。人生の先輩として尊敬し、その人らしさを失わないように支援します。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時、ご本人・ご家族様・職員が協力し、ご本人を生活を支援して行きたいとお願いしています 日頃から、現状をお話し、又月末には、近況報告を送っています。又居室に個人のアルバムを置き家族様との会話の材料にして頂いています。		
20	8	馴染みの人や場の関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から何時でも面会に来て頂けるようお願いしています。生活暦・趣味を聞き、馴染みの所へ出掛けます	入居者の馴染みの美容院への送迎や、今まで使用してきた馴染みの物（シャンプーや化粧品）は継続して使用できるよう支援している。また、入居者が以前住んでいた地域の方の訪問もあり、昼食を一緒に摂ったりしている。近所の店などは新しい関係を築き始めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が相互理解出来る様、孤立しない様に職員が声掛け・雰囲気作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても交友はあります。依頼があれば相談・支援をしたいと思えます		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活で利用者さまの様子・表情に気配りし、訴えを察知します。職員で対応策を検討し、本人希望に添った支援をします。	職員一人ひとりが入居者の思いに近づくために、情報は常に共有している。そのため、連絡ノート、気付きノート等を利用し、入居者の要望や思い、職員の気付き等を記入している。ノートを確認後、職員はサインをして確認の有無のチェックをしている。	入居者の情報を共有することも大切なことであるが、得た情報をアセスメントシート等の記録に明記していくことで、情報をより一層活用できると考えられることから、取り組みに期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や現状を聞き、著しい環境の変化がないよう注意します。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・職員間の申し送りなどで、心身の変化に注意している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何時でも必要時に、本人の現状を重視した、職員間の話し合い、家族への説明・相談した後その時のニーズに応じた計画を立て直します。	入居前に本人と家族の希望を聞き取り、ホームでの生活に馴染めるよう介護計画の期間を問わず状況に応じて見直しをしている。計画に変更が必要な時は、まず、職員の負担を減らすためのプランになっていないかを問いかけ、常に入居者のための個別プランであるよう心がけている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録やチェック表を共通の情報とし重要な事は口頭でも申し送ります。介護計画にも反映します。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の現状に応じたサービスを紹介しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
29		<b>地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を深め、地域方々から行事・催し物を紹介して頂き参加しています。		
30	11	<b>かかりつけ医の受診診断</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人・家族様に提携医説明し、納得、了解頂き月2回の往診をお願いしています。他科の受診が必要な時は紹介状をお願いし、早急に適切な診療を受けています。	入居時に希望に沿った受診ができるようかかりつけ医の確認をしている。入居前からのかかりつけ医を希望される場合は、家族による付き添いをお願いし、受診後は診療情報提供書を入手している。ホームの提携医は、月2回の往診や随時の相談、診察、他科への紹介状等の連携が図られ、速やかな医療が受けられるよう支援している。	
31		<b>看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護師が週1回健康管理をしています。職員の相談に対応します提携医の連絡を密にし、病状の説明をしています。		
32		<b>入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中のご本人に面会にしたり、家族様と医師の説明を聞き、退院後の生活がスムーズに出来るようにします。病状によっては訪看の協力を得、早期退院に努力します。		
33	12	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の希望を、ご家族様・提携医・施設の三者会談で話し合います。現状が変化する都度、三者で話し合います。ご家族様の意向を大事にしています。	入居時に重度化や終末期に向けた方針について、家族と提携医を交え話し合っている。状態に変化が生じた場合、その都度話し合い対応を確認している。看取りの経験はまだないが、管理者は職員に対して重度化や終末期に対応する方針であることを周知し、心構えを促がしている。	直接介護に当たる職員の不安は大きいと考えられる。会議や研修会等で話し合いや学びの機会を持ちつつ、早期からのホームでの看取りを視野に入れた体制づくりに期待したい。
34		<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の緊急や事故発生時のマニュアルがあり、職員は初期対応の研修を受けています。又職員は普通救命受講をしています。		
35	13	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て立会いのもと年2回の消防訓練を実施しています。緊急時のマニュアルを職員は周知している	消防署の協力を得て年2回避難訓練を行い、1回は入居者と一緒に行った。緊急時マニュアルを整備し、その内容や避難経路等を職員は周知している。救急救命講習は職員全員が受講している。災害時の備蓄品は、飲料水やトイレ等必要最小限の備えがある。	自治会や運営推進会議等を通じて協力を呼びかけるなど、災害時の地域の協力体制が強化されることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を尊重し、プライドを傷つけるような対応をしないように心掛けています。職員は個人情報関連の研修を受講しています。	入居者一人ひとりの話を、職員はできるだけマンツーマンでじっくりと聞くようにし、意見や要望には応えるように心がけている。丁寧な言葉遣いや大き過ぎる声で話さないなどを気をつけている。失禁時やトイレへの声かけ時には、周囲の入居者に気づかれないように対応し羞恥心に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者が自分の思いを話せる雰囲気作りに努めている。その思いを極力実行するよう努力します		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムにあった対応に心がけている。個々にあった催し物を探し参加する		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月半に一度の訪問理美容を利用し、整容に努めています。外出時の化粧、ナイトケアをされる方もいます。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員の手作りです。一部食器は好みの物を持参してもらいます。個々の力量にあった家事をしていただいています。季節感のある献立を用意します。	食材は宅配を利用し、入居者は準備や調理、片付けなど本人のできることを職員と一緒にやっている。月に1回は入居者と相談して献立を決め、一緒に買い物や調理を行っている。入居者と職員が同じテーブルで語らいながら食事を楽しんでいる。おやつもプリンや白玉、饅頭など手作りのものを提供している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は職員の手作りです。一部食器は好みの物を持参してもらいます。個々の力量にあった家事をしていただきます。季節感のある献立を用意します。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各人の能力に合わせて声掛け、介助を行い、毎食後口腔ケアをしています。又状態の悪い方は週1回の訪問歯科医に診断を受けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者様一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、時間誘導や声掛けを行っています。	排泄チェック表を利用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛けを行い、可能な限りトイレでの排泄ができるように支援している。入居時にオムツ（パンツ式含む）を着用していた入居者のほとんどは、現在オムツもパッドも使用していない。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が日常生活に影響する事を熟知おり注意しています。個々の排泄表を基に運動・水分摂取を心掛けています。時には医師の指導で下剤を使用します。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	原則、曜日対応としてますが、体調、本人様希望により柔軟に対応しています。又入浴剤の使用や足浴などもして頂いています。	週2～3回の頻度で1日3名が入浴している。一人ずつ十分に時間をかけてゆったりと入浴してもらえよう支援している。入浴剤や手作り石鹸の使用など楽しみとなるよう工夫している。家族アンケートからは、毎日の入浴を希望する意見もあり、できるだけ本人の希望にそえるよう取り組んでいる。	入居者一人ひとりの希望する回数や時間帯に応じた入浴の支援の実現に期待したい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は清潔保持に注意しています。本人様が休息したい時に何時でも休めるようベットメイキングをしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があるときは連絡ノート、口頭での申し送り間違いのないよう注意しています。服薬時は必ずチェックし内服表にサインをします。職員は服用薬の効能を把握しています		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事、洗濯、掃除、おやつ作りなどできる事を手伝って頂き生活に張り合いを持てる様に支援しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候や個人の体調に合わせて合同や個別での、散歩や買い物、散髪、初詣など外出をしています。又春には全員でバスの遠出を企画しています。</p>	<p>天候や入居者の希望、体調を考慮しつつ、日課として外出を支援している。散歩や地域の喫茶店、カラオケ店など馴染みの店も増えてきており、入居者にとって楽しみのある外出となっている。地域のふれあい喫茶や行事にも積極的に参加し地域の人と交流の機会がある。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>何名かは近くのスーパーやコンビニ、又散髪では自分で支払っていただきますが、お金の管理は施設でしています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご利用者様に年賀状など出していただけるに支援しています。家族様・知人からの便りは説明して渡し、時には一緒に読みます。又電話の希望時には、かけて頂いています。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>常に清潔保持に注意しています。玄関周りには季節の花を植え、壁には季節に添った飾り付けをし季節感を出す様になっています。</p>	<p>フロアは明るく清潔に整えられている。入居者のほとんどが日中はフロアで過ごし、椅子やソファで寛いでいる。各部屋の表札は、習字の得意な入居者に書いてもらい、壁には季節感のある作品が掲示されている。花を飾ったり、家庭菜園やプランターで季節の野菜や花を育てている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>十分な空間とはいえませんが、フロアのコーナーにソファを設置し居場所確保出来るようにしています。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に家族様にお願いし、ご本人の馴染みの家具・洋服・日用品等を持ち込んで頂きます。好みの品・写真立て時にはご主人の位牌もあります。居室も個々でアレンジして頂きます。</p>	<p>窓が大きいので日差しが入り室内は明るい。防災カーテンを使用してもらう以外は規制はなく、馴染みの物や好みの物を持ち込んでもらっている。居室担当者が居心地の良い居室となるよう支援し、また、一人ひとりのアルバム（ホームでの様子）を作り、各居室に置き家族とのコミュニケーションに役立っている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ・浴室・居室前には、名前や飾りの掲示をして解りやすくしています。</p>		

アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		<p>大いに増えている</p> <p>少しずつ増えている</p> <p>あまり増えていない</p> <p>全くない</p>
66	職員は活き活きと働いている		<p>ほぼ全ての職員が</p> <p>職員の3分の2くらいが</p> <p>職員の3分の1くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		<p>ほぼ全ての利用者が</p> <p>利用者の3分の2くらいが</p> <p>利用者の3分の1くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>
68	職員からみて、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		<p>ほぼ全ての家族が</p> <p>家族の3分の2くらいが</p> <p>家族の3分の1くらいが</p> <p>ほとんどできていない</p>

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年5月13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793000031		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	たのしい家東淀川菅原(2階)		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市東淀川区菅原 7-9-19		
自己評価作成日	平成22年4月2日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/Top.do">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/Top.do</a>
情報提供票を活用する場合	

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号
訪問調査日	平成22年4月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気での生活を目指しています。その為、調理・洗濯・掃除などの生活面に則した生活リハビリとして利用者様一人ひとりの状態にあった事などをして頂く事で、ご本人様自身の仕事と考えて頂きモチベーションの維持に繋げる様にしております。できる事をして頂く事で、必要性を感じ、入居者様一人ひとりが有意義に生活して頂くようなグループホームにしております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご入居者様の個人を尊重し、自分らしさがある生活の継続を家族様、地域と共に支援しいつも笑顔のたえないグループホームを目指しています。法人、事業所理念を掲示し、常にスタッフが再確認をしながら従事している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩などを通して地域の方と交流を持っています。また、地域の行事などに参加し、入居者様や職員も地域の一員として参加し、交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修を通して学習した内容を地域の方に情報として伝えている。また、地域の行事などに参加時に認知症についての説明などを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月1度会議を開催し、その時に利用者様の状態変化などを説明している。その中で、助言などを頂き、利用者様にとってより良い生活送れる様に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター・社会福祉協議会・地域ネットワーク推進委員・認定調査委員などからの情報やアドバイスなどを頂き協力関係を築くように努力している。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束は全ての職員に研修し、一人ひとり理解を深めています。その上で、安全面を優先しなければいけない場合など、事前に家族様に了解を得て対応することもあります。また、環境面の事もあり施錠をしています。		
7		虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、全ての職員に対し研修し、一人ひとり理解を深めています。また、利用者様一人ひとりの尊厳についても努力する様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者様が成年後見制度の活用をしています。また、社会福祉士の資格を持つ職員も2名おり、他の職員も理解を深める様にしております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、会社・事業所の理念、運営方針、金銭面などを十分に説明し納得頂ける努めています。また、誤った理解のないよう必要に応じて何度でも説明した上で、契約を行っています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族様の要望を引き出せるようにし、運営推進会議に、入居者様・家族様に出席頂き意見・要望をして頂く様にしています。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月1回の施設会議を開き職員と意見・提案を反映している。常に意見・要望が言える環境にし反映させるよう努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は努力した者には報われる図式を整えている変則勤務のため大変だが希望休・有給・季節休等取りやすい環境に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行い、社内外の研修に参加しやすい環境に努めている。研修・受験の資格のある職員には参加を促し、スキルアップにつながるよう配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設の見学・情報交換をし、施設作りに反映させている。地域の施設の交流会参加予定。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族様の不安・要望を重視したアセスメントを行い、職員間情報を共有し支援している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学して頂き施設の雰囲気を感じていただき、面接・契約時に現状・困っている事・希望等をお聞きします。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様の不安・要望・現況に添った介護ができるか判断します。対応出来ない時は他の施設を紹介します		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が孤独にならないよう気を配ります。人生の先輩として尊敬し、その人らしさを失わないように支援します。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時、ご本人・ご家族様・職員が協力し、ご本人を生活を支援して行きたいとお願いしています 日頃から、現状をお話し、又月末には、近況報告を送っています。又居室に個人のアルバムを置き家族様との会話の材料にして頂いています。		
20	8	馴染みの人や場の関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から何時でも面会に来て頂けるようお願いしています。生活暦・趣味を聞き、馴染みの所へ出掛けます		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が相互理解が出来る様、孤立しない様に職員が声掛け・雰囲気作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても交友はあります。依頼があれば相談・支援をしたいと思います		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活で利用者さまの様子・表情に気配りし、訴えを察知します。職員で対応策を検討し、本人希望に添った支援をします。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や現状を聞き、著しい環境の変化がないよう注意します。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・職員間の申し送りなどで、心身の変化に注意している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何時でも必要時に、本人の現状を重視した、職員間の話し合い、家族への説明・相談した後その時のニーズに応じた計画を立て直します。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録やチェック表を共通の情報とし重要な事は口頭でも申し送ります。介護計画にも反映します。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の現状に応じたサービスを紹介しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域との交流を深め、地域方々から行事・催し物を紹介して頂き参加しています。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時、ご本人・家族様に提携医説明し、納得、了解頂き月2回の往診をお願いしています。他科の受診が必要な時は紹介状をお願いし、早急に適切な診療を受けています。</p>		
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護師が週1回健康管理をしています。職員の相談に対応します提携医の連絡を密にし、病状の説明をしています。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中のご本人に面会にしたり、家族様と医師の説明を聞き、退院後の生活がスムーズに出来るようにします。病状によっては訪看の協力を得、早期退院に努力します。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に終末期の希望を、ご家族様・提携医・施設の三者会談で話し合います。現状が変化する都度、三者で話し合います。ご家族様の意向を大事にしています。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入居者の緊急や事故発生時のマニュアルがあり、職員は初期対応の研修を受けています。又職員は普通救命受講をしています。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て立会いのもと年2回の消防訓練を実施しています。緊急時のマニュアルを職員は周知している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を尊重し、プライドを傷つけるような対応をしないように心掛けています。職員は個人情報関連の研修を受講しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者が自分の思いを話せる雰囲気作りに努めている。その思いを極力実行するよう努力します		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムにあった対応に心がけている。個々にあった催し物を探し参加する		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月半に一度の訪問理美容を利用し、整容に努めています。外出時の化粧、ナイトケアをされる方もいます。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員の手作りです。一部食器は好みの物を持参してもらいます。個々の力量にあった家事をしていただいています。季節感のある献立を用意します。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は職員の手作りです。一部食器は好みの物を持参してもらいます。個々の力量にあった家事をしていただきます。季節感のある献立を用意します。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各人の能力に合わせて声掛け、介助を行い、毎食後口腔ケアをしています。又状態の悪い方は週1回の訪問歯科医に診断を受けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者様一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、時間誘導や声掛けを行っています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が日常生活に影響する事を熟知おり注意しています。個々の排泄表を基に運動・水分摂取を心掛けています。時には医師の指導で下剤を使用します。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	原則、曜日対応としてますが、体調、本人様希望により柔軟に対応しています。又入浴剤の使用や足浴などもして頂いている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は清潔保持に注意しています。本人様が休息したい時に何時でも休めるようベットメイキングをしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があるときは連絡ノート、口頭での申し送り間違いのないよう注意しています。服薬時は必ずチェックし内服表にサインをします。職員は服用薬の効能を把握しています		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事、洗濯、掃除、おやつ作りなどできる事を手伝って頂き生活に張り合いを持てる様に支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候や個人の体調に合わせて合同や個別での、散歩や買い物、散髪、初詣など外出をしています。又春には全員でバスの遠出を企画しています。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>何名かは近くのスーパーやコンビニ、又散髪では自分で支払っていただきますが、お金の管理は施設でしています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご利用様に年賀状など出していただけるに支援しています。家族様・知人からの便りは説明して渡し、時には一緒に読みます。又電話の希望時には、かけて頂いてます。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>常に清潔保持に注意しています。玄関周りには季節の花を植え、壁には季節に添った飾り付けをし季節感を出す様にしています。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>十分な空間とはいえませんが、フロアのコーナーにソファを設置し居場所確保出来るようにしています。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に家族様にお願いし、ご本人の馴染みの家具・洋服・日用品等を持ち込んで頂きます。好みの品・写真立て時にはご主人の位牌もあります。居室も個々でアレンジして頂きます。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ・浴室・居室前には、名前や飾りの掲示をして解りやすくしています。</p>		

アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない</p>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない</p>
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない</p>

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		<p>大いに増えている</p> <p>少しずつ増えている</p> <p>あまり増えていない</p> <p>全くない</p>
66	職員は活き活きと働いている		<p>ほぼ全ての職員が</p> <p>職員の3分の2くらいが</p> <p>職員の3分の1くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		<p>ほぼ全ての利用者が</p> <p>利用者の3分の2くらいが</p> <p>利用者の3分の1くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>
68	職員からみて、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		<p>ほぼ全ての家族が</p> <p>家族の3分の2くらいが</p> <p>家族の3分の1くらいが</p> <p>ほとんどできていない</p>